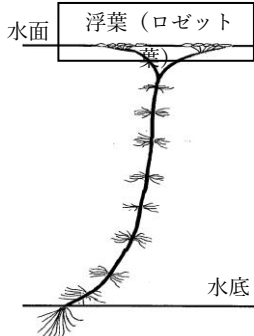


地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

提出区分		実績	整理番号	15	課題区分	C	令和8年3月11日		
横断的な課題		諏訪湖創生ビジョンの推進							
地域重点政策		諏訪湖創生ビジョンの推進					諏訪地域振興局		
実施機関		諏訪湖環境研究センター			担当課	所属	調査研究部 生態系保全班		
事業名		ヒシ除去量増加に向けた新たな仕組みの構築事業				電話	0266-78-0152		
						E-mail	lskanken@pref.nagano.lg.jp		
事業の概要等	目的 (目指す姿)	総合5か年計画及び諏訪湖創生ビジョン(改定版)に位置付けられているヒシ除去量の増加に向けた新たな仕組みづくりとして、簡便かつ費用のかからない方法によるヒシ除去を試行的に実施し、効果を検証する。							
	現状と課題	ヒシは栄養塩類吸収による水質浄化や、野鳥のえさ場、魚類や水生昆虫の産卵場所となる等プラス面の影響がある一方、大量繁茂による沈水植物への生育障害、枯死による底質環境悪化、水流障害による貧酸素化、船の航行障害、景観の悪化等マイナス面の影響がある。2028年度国民スポーツ大会開催に向けヒシ刈り等による諏訪湖の環境整備を求める声もある中で、新たなヒシ除去手法を検討する必要がある。							
	内容 (変更後の内容)	1 新たな手法の試行的導入 これまでの機械刈り、手作業での抜き取りに加え、実のなるロゼット葉のみを除去する方法を試行する。(北海道の達古武湖で先行事例あり。諏訪湖での繁茂抑制効果や費用対効果を検証。) 2 実施内容 ・前年度の除去エリアにおけるヒシ繁茂状況を調査。(撮影、分析) ・未除去エリアからの実の混入を防ぐために設置した設置網に破損があった場合は補修を行う。 ・除去エリアからヒシが繁茂した場合は、そのヒシを除去する。(経年での除去の効果を調査する。) 3 評価方法 ・対象エリアの除去前と翌年度の繁茂状況を写真等で比較し、効果を検証する。							
	事業期間	令和7年8月 ~ 令和8年1月							
事業費等	(単位:円)								
	事業を構成する細事業名等		実施内容		実績額		備考		
	設置網撤去		委託料		0		別紙経費入力シートのとおり		
		合 計		0					
指標及び達成状況	成果指標			目標値		成果		達成状況	
	試行後の繁茂密度(被度)の減少率			30%		0%		○ 達成	
	除去面積当たりのコスト(堆肥化費用)削減率			50%		45%		○ 一部達成	
								● 未達成	
事業実績・成果	令和7年8月1日に令和5～6年度の除去エリアにおけるヒシの繁茂密度を計測するとともに、再度繁茂したロゼット葉の除去を実施した。堆肥化にかかるコスト削減率を算出した結果、わずかなが前年よりも増加し、目標達成には至らなかったものの、それに近いコスト削減効果があることがわかり、ヒシ除去量増加に向けた足掛かりになった。 また、除去エリアにおける繁茂密度の減少は確認されなかったものの、除去したロゼット葉の重量は試験区外と比較して約7割、令和5年度(本事業実施前)と比較して約4割となっており、今後除去の効果が現れてくる可能性も考えられる結果となった。 以上のことから、繁茂密度が減少しない原因等を究明する必要があるため、設置網は撤去せず引続き調査を行うこととする。 また、令和6年度までの結果については、諏訪湖環境研究センターのHPにおいて業務報告として公表し、成果の共有を図った。(令和7年度の成果についても同様に公表予定。)								
	今後の方向性		繁茂密度が減少しない原因等を究明するため、引続き対象(除去)エリアの効果検証が必要であるが、すぐに効果が現れるものではないため、地域振興推進費ではない形で今後も調査及び検証を継続していく。						